

○ 重点的に取り組むべき課題について

土岐川庄内川の河川整備上の課題に取り組むための関係機関との連携及び重点的に取り組むべき課題について説明し、次のような意見を頂きました。



・庄内川ではアダプト事業は随分進んでいると感じました。企業や一般の人もいるアダプトを中心とした整備を積極的に推進する一方で、景観は長い時間がかかると思いますが、安全な河川があり、その周りに緑豊かなところやところどころに高い建物もある、というものを法律の制限などを加えられてきたら素晴らしいと思います。すぐできるものをメインに書いて頂き、時間がかかるがこのようにできたらいいな、という理想みたいなものと分けて、少しめり張りをつけて書かれたらと思います。



・国が国民に対して何ができるかということじゃなくて、国民が国に対して何ができるかということと全く同じことだと思います。車座集会などから、住民側から川に何をやるのかというアクティブな面を出して頂いたものを使わせて頂くという形もいい手だと思います。



・ある施策を行うために、時間的に短い期間で可能か、長い期間が必要か、どれくらいお金がかかるのかなど、整備のバランスを保って行う必要があるという制約条件があり、それをクリアする必要があるのか否かについて整理していくとよいと思います。



・治水では、ハードからまず何ができるのか、それで何が足りないのかということをはっきりし、足りない部分を雨水貯留等の治水システムで、それからソフト対策というような考え方で順番に決まってくるものがあるのではないか、そういう整理が必要だと思います。



・「庄内川は、ここが他と比べたら弱いから、ここが重点ですよ」とか「市民の意見交換会をやったら、皆さんからのこういう要望が強いのです。だから、ここが優先ですよ」というような、重み付けをつけるときどういう考えで重点化するのかが基準がわかるよううまく表現して頂きたいと思います。



・市民団体等の連携だけでなく、もっとローカルに沿川住民との連携を強めた方がいいと感じます。例えば、家の前にごみを捨てられると腹を立ててごみを掃除する、それと同じような発想で、もっと地元と連携してできる枠組みづくりがこれからの課題のように感じました。



・国土の環境に関わってくることは、ぜひ環境省としっかりと手をつないで進めて頂く、意識のどこかにそういうことを秘めて頂けたら嬉しいと思います。

○ 平成16年豪雨災害を受けての災害対策の改善

平成16年度に多発した豪雨災害を受けての豪雨災害対策総合政策委員会等での検討状況、水防法改正の状況など災害対策の改善について説明し、それらも踏まえて河川整備計画原案を策定していく必要があることが確認されました。



・今年度は非常に大きな災害があり、中部地整管内でも宮川水系、狩野川水系などで多くの被害が出ました。流域委員会で議論している整備水準を超える外力が災害をもたらすことがあるのではないか、ということがその流域の住民にとっては非常に心配事になると思われ、そういう想定されない外力に対しても議論になると思います。

● アダプト事業の活動の一例



河川環境調査の様子



清掃活動の様子

・順番として、治水というか安全に暮らすことができることがやっぱり一番のポイントじゃないかと思っています。つまり、100年に1回とか200年に1回という間隔では多分何も考えないと思います。結構な雨の量が約20年間隔で降っても大丈夫ということを第一に考えられることが、安心して暮らすことのできる基本のような気がしました。



・整備目標を立てると同時に、行政として公助でできることの限度を理解してもらえるように伝えるとともに、そこを超える部分は皆さんがどう自助を発揮してくれるのか求めていくことが重要だと思いますし、そういう面を全面に出してもいいのではと思います。

・瓶、缶、ペットボトルが川にいつもあるのは、そこを通る車のポイ捨てです。川に関与している人たちが、積極的に自分たちが何をすべきかと、受益者負担ばかり追いかけるのではなく、自分でできることはしっかりやる、ということはどこかで述べておかないと片手落ちになるのではないかと気がしました。

